

✓ iThenticate® 適切な利用のためのガイド

2017年4月
アシストマイクロ株式会社

98%

16%

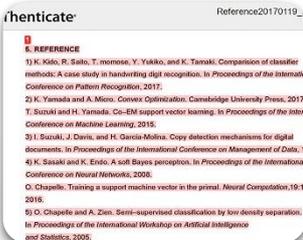
「類似度が高い＝剽窃」ではない

- iThenticateは、所有するデータベースと照合し類似性のある論文等と一致結果を機械的に全て表示します。
従いまして、類似度だけでは剽窃している論文かの判断はできません。類似度が高くても剽窃が無い場合もあれば、類似度が低くても剽窃とみなされる場合もあり得ます。
剽窃かどうかは、各機関の専門家の目でご確認の上ご判断が必要となります。

る側からそれが不正であるということ
こは厳しい罰を与えるなどしても、盗
察に停学や退学といった処分をする大
りような厳罰化が、不正を抑止するこ
用は、「他の研究者のデータ、図、表、
利益を得る行為である。」(鈴木, 2017

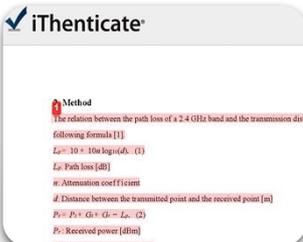
「引用」部分も類似率に含まれる

- iThenticateは、所有するデータベースと照合し類似性のある論文等との一致部分を機械的に全て表示します。
従いまして、適切に引用されている箇所も剽窃箇所も含めて結果を表示します。適切に引用されているか、剽窃に該当するかの判断はチェック結果を参照し各個人の判断に委ねられます。
- フィルター設定に「引用文の除外」機能があり、引用箇所を自動的に外すことができますが、自動で外れないケースもありますので確認が必要となります。



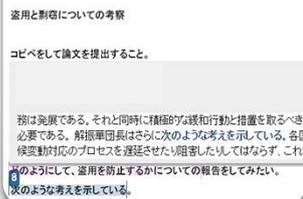
「参考文献」も類似率に含まれる

- iThenticateのチェック結果は、「参考文献」も含めて結果が表示されます。
従いまして、「参考文献」が自動的に外れて結果がでるのではなく、「参考文献」の箇所も含まれて結果を表示します。
- フィルター設定に「参考文献の除外」機能があり、参考文献や書誌情報を自動的に外すことができますが、自動で外れないケースもありますので確認が必要となります。



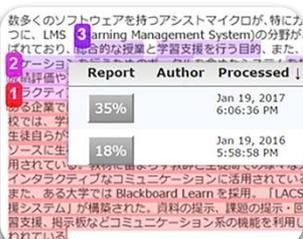
「Method」部分の一致で類似率が上がる可能性がある

- 「Method」が共通の場合も一致結果を表示するため、類似率が上がる可能性があります。
フィルター設定に「メソッドの除外」機能があり、メソッドを自動的に外すことができますが、自動で外れないケースもありますので確認が必要となります。



「共通のいいまわし」や「固有名詞」も類似率に含まれる

- 「共通のいいまわし」や「固有名詞」も類似率に含まれるため、多く含まれる論文は類似率が上がることがあります。



同じ論文を再チェックした際に類似率が変わる可能性がある

- iThenticateのデータベースに含まれる論文等は増えていきます。従いまして、チェックした時点では類似度が低かった論文が、時間をおいて再度チェックを行った際に類似度が高くなるケースがございます。